

ガンマナイフ inside 同志による治療の核心



照射後の下垂体機能低下リスクの知見を深める

Dose to neuroanatomical structures surrounding pituitary adenomas and the effect of stereotactic radiosurgery on neuroendocrine function: an international multicenter study

Pomeraniec IJら J Neurosurg. 2021 Sep 24;136(3):813-821.

紹介担当 大田記念病院 中崎清之

(ガンマナイフ有志)

洛西シミズ病院 川邊拓也、新須磨病院 近藤威
岡村一心堂 蓮井光一、青山総合病院 水松真一郎
国立循環器病研究センター 森久恵



米国での16施設による後ろ向き多施設共同研究。下垂体腺腫に対するガンマナイフ治療の遅発性下垂体機能低下の調査。

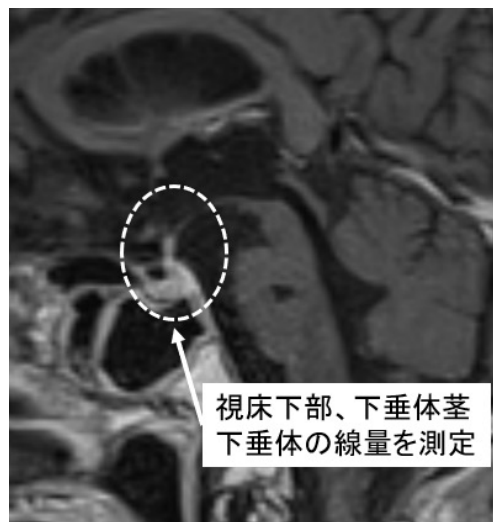
【この報告の独自性】

下垂体腺腫のガンマナイフ治療の時に下垂体、下垂体茎、視床下部の線量を測定し、有害事象リスクを調査。

【結果の要点】

非機能性、若い患者、高い辺縁線量、下垂体茎・下垂体への高線量が新たな下垂体機能低下・悪化の危険因子。

下垂体茎への閾値線量は10.7Gy。



図は自験例で作成

各ガンマナイフ治療医の意見

- 個々の治療で、個別のリスクを見立てて説明できるようにすることは必要。
- 分割照射についても検討を。
- ガンマナイフ治療普及前は汎下垂体機能低下は必須だったが、ガンマナイフ治療についても説明が必要。
- 視神経障害以外の有害事象にも着目すべき。

祥和会

脳神経センター大田記念病院 福山ガンマハウス

Brain Attack Center Ota Memorial Hospital Fukuyama Gamma House

〒720-0825 広島県福山市沖野上町三丁目6-28



084-926-3515



084-928-2769